

## 水と森・歴史と文化に息づく 利根川源流のまち

みなかみ町役場まちづくり交流課次長 **鈴木 伸一**

### みなかみ町の紹介

群馬県みなかみ町は、平成 17 年 10 月 1 日、旧新治村、旧水上町、旧月夜野町の 3 町村が合併して誕生した町です。面積は 780 平方キロメートル余りと広大で、町の北部に位置し、新潟県と接する谷川連峰は日本海側と太平洋側の分水嶺です。主な産業は稲作や寒冷な気候を活かした果樹を中心とした農業、18 の源泉を有する温泉やアウトドアスポーツ、のどかな農村風景の中での散策や体験といった観光業です。古くから与謝野晶子、若山牧水など、多くの文人墨客が訪れ、みなかみの風景を詠んでいます。「みなかみ」という町名は、何度も当地を訪れた若山牧水の紀行文「みなかみ紀行」に由来しています。

平成 20 年 3 月に策定した「第 1 次みなかみ町総合計画」に基づき、「水と森・歴史と文化に息づく利根川源流のまち」を目指しています。みなかみ町が「利根川源流のまち」と言われる所以は、町の北端に位置する大水上山の三角雪渓からの一滴が利根川の源であると言われていること



大水上山の三角雪渓

によります。この利根川は流域面積日本一を誇り、首都圏の水瓶として流域 3,000 万人の暮らしを支えています。



散策・体験ができる「たくみの里」

### 源流を活かす

みなかみ町は奥利根湖、ならまた湖、<sup>どうげんこ</sup>洞元湖、藤原湖、<sup>あかやこ</sup>赤谷湖という 5 つのダム湖を有しています。それぞれのダム湖は本来の機能だけでなく春は新緑、秋は紅葉で彩られ、観光資源としての役割も果たしています。また、奈良俣ダムには資料館「ヒルトップ奈良俣」が併設され、ダムの役割や重要性、周辺の自然などを学ぶことができます。

以前からダム湖には釣り客を中心に多くの観光客が訪れていました。近年では、釣り客の他に、カヌーやボートといったアウトドアスポーツで利用するお客さんが増えています。

平成 25 年 7 月 5 日から 7 日にかけて、みなかみ町

を会場に全国源流の郷協議会加盟町村が一堂に会し、第4回全国源流サミットが開催されました。今回のサミットは、『源流 ～魅力の発見と活用～ 利根川の源流で思いつきり体感』をテーマとして、水資源機構の甲村理事長の記念講演、河川や森林の保全に取り組む団体による特別報告、パネルディスカッションなどが行われ、参加町村がそれぞれに源流域を保全しつつ活用して、地域の活性化に結びつけていくための方策を探るべく、熱心な討論が重ねられました。最終日のエクスカージョンは、利根川源流探訪、溪流環境の復元を目指す取り組みの見学、奥利根水源の森散策の3つのコースで行われ、参加者の方々に源流の活用と保全を体感していただきました。



紅葉の赤谷湖



第4回全国源流サミット

## 源流を守る

源流域に住んでいると灯台下暗し、とでも言いますか、源流のもたらす恩恵や重要性になかなか気づきません。そのため、つい森林や河川を保全するという意識が薄れがちになってしまいます。しかし、私の主観ですが、ダム建設により移転を余儀なくされ、住み慣れた故郷がダム湖に沈んでしまった方々の多くは、「利根川の源流域が下流域の生活を支えているんだ」という意識を持ち、平日頃から源流の保全に関心を持っているような気がします。

近年、みなかみ町でも森林整備隊が結成され、間伐により森林の保全に取り組むなど、源流を守ろうという機運が高まっています。私も源流の大切さや役割を再認識し、どんな些細なことからも、保全に結びつく行動を自ら起こさなければならないと思っております。源流を守ることは、中下流域の方々の暮らしを守るだけでなく、自分たちの暮らす源流域の活性化にもつながるのだと思います。



新緑の照葉峡